

## Global and Innovation Gateway for All

## GIGA通信

-児童生徒1人1台端末の日常的な活用に向けて-



発行元

佐野市教育センター

佐野市上羽田町1134番地1

電話 20-3108

20-3048(相談専用)

今年度、佐野市教育センター学習指導調査研究委員会では、「子供も教師も学びやすくなるため、端末をどのような場面で、どのように活用すると効果的か」ということをテーマに、小・中・義務教育学校の5名の委員の先生方が、日々の授業で研究・実践を進めています。

今回のGIGA通信では、委員のお一人でいらっしゃる犬伏小学校の先生の授業実践を紹介いたします。

## 『協働的な学びを充実させるための1人1台端末の活用～4年算数での実践例～』（犬伏小）

先生は、様々な教科で日常的に1人1台端末を活用して授業を進めています。今回参観させていただいた、算数「四角形の特ちょうを調べよう」の授業でも、児童がノートや筆記用具などの文房具と同じような感覚で端末を使っている様子が見られました。

本時は以下のような流れで進められ、メインとなる学習活動2では、ロイロノートを活用した協働的な学びが展開されました。

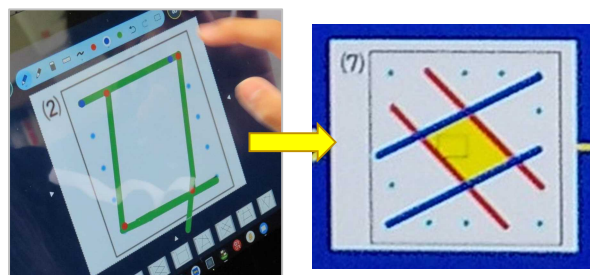
## 学 習 活 動

- 1 本時の学習課題、めあての確認  
【めあて】平行な直線に注目して四角形を仲間分けしよう。
- 2 3人グループでいろいろな四角形の平行な直線を調べ、仲間分けをする。(ロイロノート)
- 3 グループの考えを共有する。(ロイロノート)
- 4 「台形」と「平行四辺形」の定義を知る。
- 5 学習のまとめと振り返りをする。

◇ロイロノートの共有ノートを活用し協働的に学ぶ  
学習活動2において、先生は事前にグループごとの共有ノートを準備しました。先生の説明後、児童はグループ内で会話をしながら、共有ノートにある9種類の四角形について、平行な直線を調べ始めました。

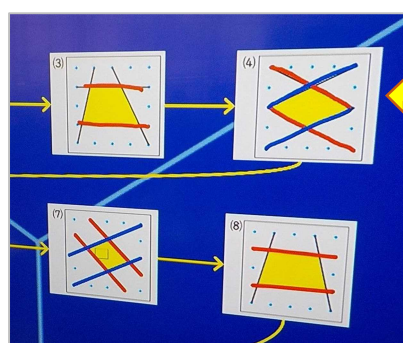
初めは四角形の全体の形を頼りに仲間分けをして

いた児童が多かったのですが、そのうち並行になっている直線を色ペンでなぞる児童が出てきました。さらには、四角形の中に複数の平行な直線があることに気づき、平行になっている直線の組ごとに色を変えて線をなぞる児童も出てきました。



このタイミングで、これまで机間指導しながら各グループに個別支援していた先生が児童の活動をいったん止め、1～2グループの共有ノートを全体に紹介しました。

これによって新たな考えに気付く児童もおり、後半の活動では、平行な直線の「組の数」に着目し



て仲間分けをする児童が増えました。協働的な学びの中で、互いに考えを伝え合

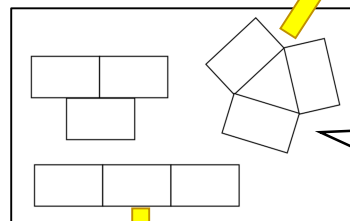
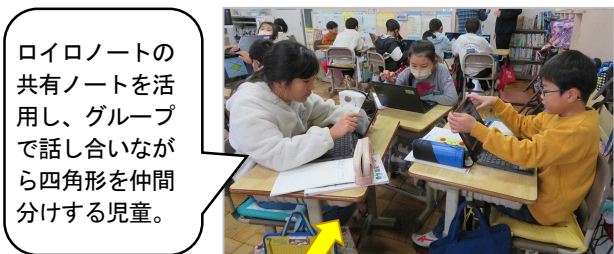
ったり他者の考えを知ったりすることをおして、個々の児童の思考が広がったり深まったりしていることが伝わってきました。

## ◇児童の主体性を生かしつつ、先生が児童の学びをコーディネート

先生は、児童たちが主体的に考えて決定することを大切にされています。学習活動2において、先生はめあてを確認する以外はグループの机の配置やシンキングツールについては細かな指示を出しま

せんでしたが、共有ノートが準備されると、児童はすぐにグループを作り、シンキングツールを利用して活動を始めました。

机の配置は、話し合いがしやすい配置を児童たちで相談して決めていました。

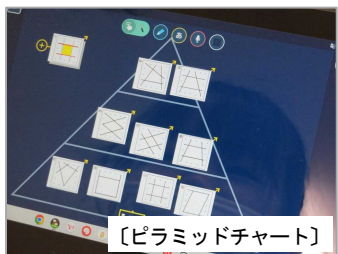


児童たちが考えて配置した様々なグループの形。



お互いの画面を見ながら話したり考えたりできるよう、机を横並びにしたグループも。

四角形を仲間分けするために活用するシンキングツールも、児童たちが相談して決めていました。ピラミッドチャート、Yチャート、KWLチャートなどを選択するグループが多いようでしたが、中には、四角形を仲間分けするうちにより適したシンキングツールに気付き、途中から変更したグループもありました。また、どのような視点で仲間分けしたのかが分かるように、キーワードを書き込むグループもありました。

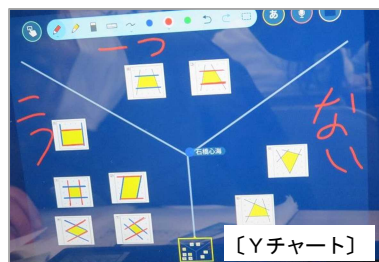


【ピラミッドチャート】

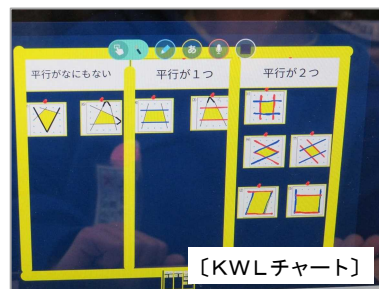
グループ活動の間、先生は各グループの学習状況を確認しながら机間を回り、考える視点が見い出せなかったり、ずれてしまったりしている児童には個別支援を行っていました。先生が随時、「平行な直線に注目して四角形を仲間分けする」というめあてを児童に意識付ける言葉掛け



をしながら授業をコーディネートすることで、全員の児童がめあてに向かって意欲的に学習に取り組むことができていました。



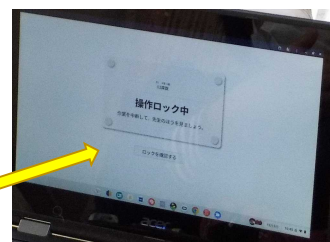
【Yチャート】



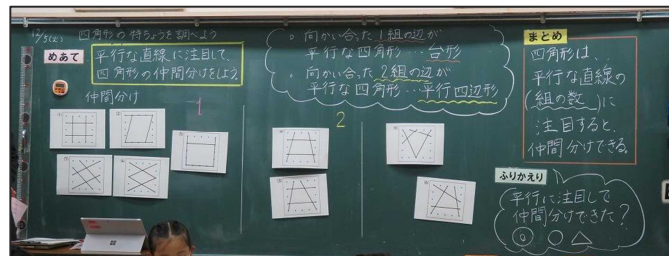
【KWLチャート】

「平行な直線の組の数」に着目し、いろいろな四角形を3つに仲間分けしました。活用したシンキングツールは異なっても、同様に分類されています。

学習活動3では、3つのグループの代表児童が仲間分けの結果を発表しました。児童が大事な話を聞く場面では、先生が児童の端末の操作をロックし、友達の発表を集中して聞くことが出来るようにしていました。



学習のまとめと振り返りは、黒板を使って行いました。掲示用の四角形のカードを使って本時の学習活動を視覚的に整理することで、学習内容が一目で分かる板書となっていました。



先生は授業を振り返り、「協働的な学習とタブレット活用の利点について、改めて気付きました。友達と協力して主体的に学びに向かう姿が見られ、よかったです。学習のめあてから外れないよう気を付けながら、主体的に考えて取り組めるよう、意識して指導をしていきたいです。」と話されていました。